

令和5年度 学校教育学部入学式 —学長告辞—

今年はいつになく早い春の訪れで、キャンパスの桜やコブシの花もすでに満開です。この春爛漫の良き日に、169名の新入生の皆さんを、本学にお迎えします。ご入学まことにおめでとうございます。上越教育大学の教職員を代表いたしまして、皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

皆さんが大学受験に向けて勉学に励んだ高校時代の3年間は、ちょうど新型コロナウイルス感染症のまん延と重なっていました。ようやく、新型コロナの感染も弱まり、これからは、日常生活が戻ってくると予想されています。きっと楽しい大学生活が始まることでしょう。とは言いましても、さまざまな地域から、大勢の皆さんが集まっていますので、今しばらくは、感染症にかからないように十分に留意されて生活をしていただきたいと思います。

これまでの3年間を振り返ってみますと、大学も大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症が始まった当初は、これからどうなっていくのか、大学教育が成立するのかどうか、と心配でしたが、大学にかぎらず、多くの教育機関がいち早くDX化を進め、本学でも、オンライン授業やオンデマンド授業というスタイルで、教育が行われました。もちろん、教育実習など、実際に現場に立たなければ学べない事柄もありましたが、文部科学省からは実習時間の短縮や代替措置などの通知もあって、教育は滞ることなく進んでいきました。この間、情報機器や情報技術の進歩はめざましく、たとえば、昨年11月に公開されたチャット GPT は、無料でできる革新的なAIチャットのサービスとして世間の耳目を集めています。

このGPTは、2015年12月に、実業家であり投資家であるイーロン・マスクらが参加して組織されたOpen AIが開発している自然言語処理モデルです。GPT-2では、40GBのテキストデータが事前学習されていましたが、GPT-3では、45TBのテキストデータが学習されています。1TBは1GBの1000倍です。最新のGPT-4では、司法試験の模擬試験で受験者の上位10%程度のスコアを記録したということがネットニュースで流れています。マイクロソフトの検索エンジン「Bing」のチャットGPTは、GPT-3を使っていますが、非常にスムーズな言語表現が可能になっています。この技術は、学校教育にも大きな影響を及ぼすと考えられます。たとえば、チャットGPTで質問すれば、自然な文章の形で回答を作ってくれるので、学校の宿題や小論文の作成に悪用する者もいるのではないかとの声もあがっています。実際に、オーストラリア政府が学校での使用を禁止しているようです。私も、大学教員のはしくれとして、授業で出されたレポート課題を、こうしたチャットGPTで作って提出する人がいるのではないかと思います。しかし、一方で学生さん自身がさまざまな質問を、チャットGPTに対して繰り返すことで、さまざまな事柄を学ぶことができるのではないかと思います。つまり、スマホやパソコンの中にとて

も能力の高い教師がいて、いろいろな質問に答えてくれるような状態になっているのです。大事なのは使い方だと思います。皆さんには、自らの能力をより高めるために使っていただきたいと思います。

こうした技術革新によって、知識の在り方自体も変化しているように私は感じます。私が小さい頃は、教科書に掲載されている知識を覚えることが勉強でした。でも、今では、知識は、ネット上にあふれています。必要なときにチャット GPT に尋ねれば、教えてくれます。そういう時代に必要なのは、必要なときに、必要な知識を探し出してその真贋を確認し、それを活用する能力なのです。もちろん、そうした能力を育成するには、基礎的な知識の学習もまた必要だということは言うまでもありません。

古代ギリシャの哲学者プラトン以来、知識は、「正当化された真なる信念である」という捉え方があります。正当化のためのエビデンスが求められるとはいえ、信念ですから、主観的な思いが影響します。つまり、正当化された知識だと自分自身が思い込んでいるというような事態も起こりうるのです。多様な視点から、知識を何度も吟味し、今のところはまだ反論されていない知識なのだという捉え方も必要になってくるように思います。そうした探究し続けるような態度もまた、教職を目指す皆さんには、本学での学びの中で身に付けていただきたいと思います。

すでに、新聞やウェブでも掲載されていますが、本学は、高い教員就職率を誇っています。文部科学省は、毎年国立の教育大学と教育学部の教員就職率を公開していますが、ここ10年間、本学は毎年80%を超えており、10年間連続してこの数値を出しているのは本学のみです。4年後には、皆さんもぜひ夢をかなえて、教員として巣立っていただきたいと願っています。皆さんの教員としての就職については、学内の就職支援室（プレイスメントプラザ）とそこにいらっしゃるキャリアコーディネーターの先生方が支援してくださいます。

皆さんは、学校教育学部に入りましたが、学部の上には大学院という組織もあります。本学の場合、学部の入学定員は160名ですが、その上には、2年間の専門職学位課程（入学定員190名）および修士課程（入学定員20名）があります。普通の大学では、学部の入学定員の方が多いのですが、本学では、それが逆になっています。そして、さらにそのうえに博士課程もあります。本学は兵庫教育大学連合大学院博士課程の構成校になっていますので、博士課程への進学も可能です。将来、そういう選択肢もあるということを、覚えておいていただければと思います。

さて、皆さんがこれから生活するこの上越の地は、とても自然豊かな地域です。冬には、昔よりは積雪が少なくはなりましたが、それでも雪は積もりますから、この地域に住む人々の春を待ち望む気持ちは、他の地域よりもとても強いのではないかと思います。春になれば、木々が一斉に芽吹きます。春の花々が開花するのを見て、「今年も春が来たな」と私たちは強く感じます。今は、桜の

花も満開ですから、ぜひ高田城址公園などを訪ねて、満開の桜あるいは夜桜を楽しんでください。

夏になると、湿度が高く暑い日が続きます。上越高田は昔から豪雪地帯のように言われていますので、夏は涼しいようなイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、フェーン現象で気温がとくに高くなる日もあります。秋になると、山々が美しい紅葉色に飾られ、その後、雪下ろしの雷と共にまた冬がやってきます。

せっかく上越にいらっしゃったのですから、皆さんも、こうした豊かな自然を味わってみてください。市内には、日本のスキー発祥の地である金谷山や、上杉謙信の居城のあった春日山もあります。直江津地区には、飼育数世界一のマゼランペンギンがいる上越水族博物館もありますし、海水浴場もあります。流刑の身となった親鸞聖人が上陸した居多ヶ浜も直江津地区にあります。上越市とお隣の妙高市や糸魚川市には、たくさんスキー場もあります。山も、里山ばかりではなく、日本百名山に数えられる妙高山や火打山、雨飾山もあります。私たちは、何事かを学ぶとき、自らの体験に照らしてそれを理解することも多いのです。したがって、自然体験であれ、文化体験であれ、豊かな体験は、今後いろいろなことを学び、理解するときの助けになります。

最後に、本日ご列席いただいたご来賓の方々、遠方よりお越しいただいた保護者の皆様には、厚く御礼申し上げます。また、大学として、新入生の皆さんには、大学での学びと生活を支援することをお誓い申し上げて、告辞といたします。

令和5年4月5日
国立大学法人 上越教育大学長
林 泰成